校長室だより No.　8 平成 30 年 5 月 25 日(金)	強く　やさしく	六ツ美中部小学校校長 加　藤　嘉　一（かとう　よしかず）

強く　速く　美しく　君が輝く　－　体育祭　心技体を磨く　－

【5月 21 日(月)予行　低学年演技】

小さな体を精一杯つかい満面の笑みで決めポーズをする低学年の子供たち。冒険に臨むドキドキ感やワクワク感の表現に力強さが出てきた中学年。新たな組体操創造を意気に感じて全力で挑戦している高学年。集団演技は、やっている子供たちの学びでありますが、見る者をこうも魅了するものかと感動します。校長室の窓のフレームから見る風景は、約３週間に及ぶ子供と先生達の奮闘を描いたメイキングビデオを見ているようです。本番の演技を見ている時は、「がんばれよ、がんばれよ」と願いながら、長いドラマのラストシーンを支えているスタッフの気持ちになり、終わった瞬間は、感無量になります。教育に携わる喜びを感じます。

【5月 21 日(月)予行　中学年演技】

わたしが最近気にしていることの一つに「逆境に強い人間はどう作られるのか」という命題があります。生きていくうえでは自分にとって苦手なことや自分の思い通りにならないことにたくさん出会っていきます。しかし、子供たちには、逆境に強い人間になってほしいと願っています。

【5月 21 日(月)予行　高学年演技】

徒競走やリレー、紅白対抗種目には順位や勝敗が生まれます。勝敗にむきになる子供たち。応援に必死になる子供たち。しかし、自分の思うように結果は出ないもの。一昨年、決戦六ツ美が原が終わり退場した瞬間、負けて悔しくって涙を流す大将の姿がありました。この涙がよかった。本校の最大のよさは、この紅白対抗にあると思います。よい結果が出る場合と出ない場合があり、

がんばればがんばったほど、心の動きが生まれます。集団演技を含めこうした行事でうれし涙・悔し涙、さらに心が動く瞬間を仲間と共有する経験や思い出が、逆境に出会ったとき、それに立ち向かう何らかの糧になると思います。

【過去10年間（平成20年度～29年度）の戦績】
〇赤８勝　白１勝
　引き分け１（平成21年度）
　昨年度は、平成19年度以来、10年ぶりの白組の勝利

わたしは、体育祭に向けて職員会で下のようなお願いをしました。「静と動」のメリハリを通して、心技体の伸長をねらいます。そして、子供たちの願いと体育主任・石川先生の思いをこめたスローガンも、予行前に発表してもらいました。

【職員会にて】
〇体育祭で大切にしたいこと
　①「静と動」のメリハリ
　②体育主任と子供の思いの実現
　③子供の感動づくり（赤白対抗へのこだわり）
〇留意すべき事項
　・熱中症対策注意　　ほか

石川先生の今年の願いは、一人一人の個の輝きを追求してほしいというものです。中部小の願いは、みんなで共有されました。

本校は、学区とともに盛り上がる体育祭であり、各町の競技にも子供たちは全身で応援をし、自分の町内の威信をかけ、大人と一体となって燃える瞬間が用意されています。これも本校の体育祭の魅力です。明日のために校務員の水谷さんが、時間をかけて校内の草を刈り学区の皆さんを迎える準備をしてくれました。明日は子供も大人も一緒になり、今年ならではの心に残る体育祭になることを願っています。

【本年度のスローガン】
強く　速く　美しく
君が輝く

ボランティアの力　－丸池清掃－

【5月24日(木)撮影　晴天を映す丸池】

本校南門を入ると、すぐにわたしたちを迎えてくれる丸池。この丸池は１年経つと多くの砂が入り、底が泥のようになってしまいます。毎年、池の中で過ごす魚たちの生態系を見ながら清掃の時期を決めています。これを19日（土）にＰＴＡはじめ、ちゅらぼの方々、子供たち、元ＰＴＡ会長さん方、そしてなんと大山康弘前教頭先生がボランティアで清掃してくださいました。晴天の空を美しく映す丸池に戻りました。ありがとうございました。